

「多数決」を問い直す！

—多数決が開けた 21 世紀のパンドラの箱

アメリカ大統領選挙におけるトランプ大統領の選出や、イギリスのEU（欧州連合）離脱をめぐる国民投票など排外主義が世界を渦巻く 2016 年は、「多数決」という決め方によって、民意が大きく問われる事態が起きました。

多数決と聞くといかにも多数意見が尊重され、民意が反映されており、究極の民主主義であると思われるがちです。しかし、2000 年のアメリカ大統領選挙でゴアがブッシュに優勢するなか、「第三の候補」ネーダーの参戦により票が割れ、「漁夫の利」でブッシュが勝利をつかんだように、「決め方」によって結果に違いが出てくるにも関わらず、私たちの多くは多数決以外の方法を知りません。

多数決という制度は民主主義の理念を実現するのに適しているのでしょうか。私たちはその決め方について大きな疑問を持たず、その欠点にも多くが気付くことなく過ごしてきました。

投票などの「決め方」を研究している坂井豊貴氏が、「多数決」の問題点と改善案について正面から論じます。

講師

坂井 豊貴（慶應義塾大学経済学部教授）

1975 年生まれ。ロチェスター大学経済学博士課程修了(Ph.D. in Economics)。横浜市立大学、横浜国立大学、慶應義塾大学の准教授を経て、2014 年より現職。「決め方」の研究で多くの国際業績をあげる。2015 年義塾賞。ベストセラー『多数決を疑う』（岩波新書）は 2016 年新書大賞 4 位、『決め方の経済学』（ダイヤモンド社）は週刊ダイヤモンド 2016 年ベスト経済書 3 位。著書はアジアでの翻訳が続いている。今年 4 月に『ミクロ経済学入門の入門』（岩波新書）を公刊。



開催概要

- 日時：2017 年 4 月 28（金）19:00～20:30（18:30 開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下 1 階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200 名（事前申込順、定員に達し次第締切）。
- 参加費：1,000 円
- 申込方法：来館（1 階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）いずれかにて
①講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。